

総評「平和」をアピールに「応え」

嵐を呼ぶベトナム反戦の風

連日二三日波の北爆を糾弾し、解放勢力の攻勢に「応えよう」。

当区議者の北ベトナム・解放戦線は十月三日以来、南ベトナム全土で二段の大攻勢を開始しており、ニワソンのベトナム化計画、コ南ベトナム平定計画に重大な打撃を与えている。解放勢力は、九日、国道、県線沿いのコソポリチュレイ、リボソ、トフレマの政府軍拠点を奪取し、カンボジアと南ベトナムのメコンデルタ地帯を結ぶ全ての道路を支配し、国境沿いに自由と南ベトナム入物資を供給するようになった。マ、サイゴン北方のドンアオン省、隣のタイン省など、サイゴン周辺地域での攻勢も拡大し、ニワソンの政権下中のサイゴン政權の層孤立と動搖の甚大へおこしている。これと対応するようニワソン、タイカンボジアでのベトナム解放勢力の活動は活発化しており、ニワソンのインドシナ侵略、カイライ政權に大きな打撃を与えている。

この南全土に及ぶ大攻勢は、十二月米大統領選に選挙をめぐって本格的攻勢の第一段階であり、サイゴンを包囲し孤立を深めるニワソンに打撃を与えるためである。

ニワソンは、これに対し、KOLONIA降、連日30波以上の北爆、更に南部の解放勢力陣地をじやうたん爆撃を続け、狂暴な戦術で戦場、生態系破壊を行い必死の巻き返しに出ている。そして、この裏で、米大統領向けの「和平宣伝」を行っているのである。

このような「和平」宣伝に対し、北ベトナム側は、これを強く否定し、秘密交渉にたいする柔軟な態度も保持しな

なり、あくまでも、ベトナムの統一と解放戦線合政府の確立という原則的立場を主張しており、ニワソンの侵略的本意を激しく非難している。ニワソンのねらいは、数週間後に迫った米大統領選をひたえ、巻き返しの可能性を残しながら、何らかの譲歩を行い、国内反戦世論を鎮め、一方で狂愚な北南爆撃を止めて、現在の右勢をバンコイ化することである。

しかしながらこのベトナムの真意はインドシナ人民の民族解放と自由のための斗い、全世界の反帝平和勢力の断固たる支援の下に必ず挫折するものである。今や、米帝国主義の侵略は、ベトナムだけでなく、インドシナ半島の他の国々にも波及している。ベトナム代表は、米帝国主義によってベトナムとその他の国々を結びつけるか、民族和解政府を認めるか、和平の介介であるかと主張したのである。

アジア地域の平和と緊張緩和はいつにインドシナ和平にかかっており、インドシナ解放勢力の勝利は、米帝国主義のインドシナ侵略にき極的に加担し、四次防を策定し、アジアへの対外進出を強める日本帝国主義に対して決定的な打撃となるであろう。

総評の10・21国際アピールに「応え、インドシナ反戦、田中の侵略加担、四次防反対斗争に決起せよう」。

当区議者の今日政府は、アジア太平洋地域において覇権を求めないといった言を、かかる間に四兆六千五百億にものぼる四次防計画を決定した。当初計画の五兆八千億に比べ額で減少しているが、そのウラへつづく

10/12

議会議統一統

民衆同義

平和と平和共進、学生運動の

の内容は、へり種戦中型護衛艦二隻、F4E三機、
ントム、高性能の新制戦車などは原案通りであり、
とくに、T2高等練習科とこれを改良したFST2
改が軍需品と防衛力との実用で国産となり、国
防費の大きなことは、一躍世界七位になった。この四
次防決定は、日本政府独自の強い海外進出欲と侵略
的性格をあらわにし、一般優勢、制海を確保して領
土領空外で敵を排撃するという構想に基いている。
この様に田中政府は、日中国交回復し「平和」外交
と並行して軍事力強化を押し進め、アジア地域での
米国の共同の利害を守るため積極的にインドシナ
侵略に加担し、自衛隊中絶配備によって沖縄の日本
共同基地化、日本全土の巨大な後方基地化とばかり
侵略戦争の遂行のためのあらゆる便宜をはかってい
る。インドシナ情勢の緊迫化に伴って、今後増々、
日本の基地、補給機能が重要となることは必至であ
り日本国内の侵略加担を許さぬ計いが詰まってい
る。

ベトナム解放戦争に直結する米軍車両、弾薬の
輸送、演習に反対する計には、本橋原戦車輸送阻止
の計は、この、沖縄、横田、五川、北富士、沼津、
など全国で反基地、反自衛隊斗争として行われてい
る。

この様なかで総評は10・21国際アピールを全世界
の反帝中和勢力に向つて発し、10・21国際反戦デーを
インドシナ侵略戦争の即時中止、南ベトナム共和政府
の七項目提案と、インドシナ諸国民の民族自決に基
づく平和の樹立、同時に日米安保条約の廃棄による
在日米軍基地の一掃と日本軍国主義の復活阻止及び
日本反動政府のインドシナ侵略戦争への加担の中止
をあげてインドシナ情勢をかかげている。

我々はこのアピールに心を、各クラス、学科を基
盤とした大衆的決定をかちとっている。
や反戦、反基地闘争を内
つウラフスの意思を統一を
打ち固め、10・21国際反
戦デーに市大統一隊列
で決起しよう。

学生諸君。このさうな国内外の情勢の下で、
我々がしなければならないのは、更に強く我々の

中には、21国際反戦デーを斗争意義と徹底し、反戦意
識を高めることである。このことはウラフ運動各委員会
を軸とする日韓のウラフ活動の一環として行なわれな
ければならぬ。その中で更にウラフ活動強化、
発展させていかなければならぬ。とりわけ、上工、
上工、上工、上工を中心とする春期のインドシナ反戦で
我々をウラフスの横の連帯を更に強化していく必要が
ある。この様なウラフスを基礎にした運動の升が、学生
共々、華マルの一切ウラフ活動を無視した学生共々へ
の運動の流し込みと学生共々の私物化に対する責務的
な弾劾としてあり、現在の市大の諸潮流運動を克服
し、更に力のある自治会を再建してゆく唯一の道であ
る。

学生諸君。ベトナム反戦、反基地闘争を闘うウラ
フの意志統一を打ち固め、10・21国際反戦デーに、全
市大のウラフを基盤にした統一隊列で決起しよう。

一九七二年十月十三日

日共主義学生同盟
市大ウラフ部統一合議